

インターバンクの声（2016年2月29日）

週末、米国の昨年第4・四半期 GDP と、1月の個人消費でも取り分け連邦準備理事会（FRB）などが注目しているコア個人消費支出（PCE）が市場予想よりも堅調な結果となり、ニューヨーク市場の中盤からドルが全面高となった。特にコア PCE は、2014年7月以来の大幅な伸びとなり、FRB の年内利上げの可能性を引き戻すどころか利上げ時期が想定されるより早まると思わせる内容だった。ただ、ニューヨーク市場の朝方に上昇傾向にあった原油価格が反落したり、米国債利回りの上昇が株式市場には重石になってしまったこともあってドルは終盤には上昇力を失ってしまった。主要20カ国・地域（G20）財務相・中央銀行総裁会議については、市場の安定に向けてあらゆる政策を総動員することで合意したことを好感する見方が優勢のようだが、具体的に財政出動に積極的な動きを見せた国もなく、世界経済の回復が続いている認識を示したからと言って、週明けからの市場が落ち着きを見せ始めるかどうかは微妙なところだろう。まだまだ原油価格の動きや指標結果などに神経質な相場展開が続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。